

西部地区講習会報告

1 第1回 西部地区講習会

- ① 日時 令和5年4月25日(火)
- ② オンラインでの視聴、ZOOM 研修、およびデータ紙面での資料
- ③ 研修内容、感想
 - ・全体会(オンデマンド、ZOOM)
オンデマンド…研修計画、役員紹介、学校紹介など
ZOOM…「静言研について」 講話:井口亜由美先生(天竜中学校)
 - ・分科会(オンデマンド) 「言語」、「発達」 講話:根木明子先生(浜松市教育委員会)

<内容・感想>

新任者研修会を兼ね、YouTube 配信と ZOOM で実施した。全体会では、本年度の西部地区の運営、研修計画など説明した。講話では、静言研の目的、歴史、運営の仕方などを説明いただいた。通級担当者の大きな力となり支えてくれる組織であることを新任者も理解することができた。分科会では、言語、発達ともに具体的な指導の仕方や基本姿勢の講話を受けた。具体的な支援方法を学ぶ機会となった。また、講師から提供された参考資料を CD にまとめて郵送したことで、いつでも見返すことができありがたいという感想をいただいた。しかし、YouTube に挙げるための準備や ZOOM 操作など不慣れなため、時間がかかり運営面でも改善が必要であるという感想もあった。

2 第2回浜松地区講習会「構音指導を学ぶ会(全二回)」

- ① 日時 第一回…令和5年4月29日(土)、第二回…令和5年6月3日(土)
- ② 会場 第一回…浜松市立北浜小学校、第二回…浜松市教育センター
- ③ 内容 第一回…構音指導の基礎知識と指導方法
第二回…音の発達と構音障害の分類、ス音とカ音の音作りについて
講師 北浜小学校 教諭 白井有希乃先生

<内容・感想>

初めて「ことばの教室」の担当者になった先生方に対して分かりやすく、実践的な研修会となるように全二回で実施している。講師は全2回とも浜松市立北浜小学校の白井有希乃先生。第一回では、構音指導がどういったものであるかという基礎知識と構音指導に対する心構えと実際の指導について、演習を交えたり、白井先生の指導の記録映像を見たりしながら、教えていただいた。第二回では、音の発達の様子と構音障害の分類について、DVD 資料を用いたり、ス音やカ音の具体的な音作りの方法について演習を交えたりしながら学んだ。新人担当者にとって、とても分かりやすい内容であり、どう指導していったらよいか、不安に思っている先生方にとって、基礎的な指導方法を学べるので、大変心強い研修となっている。

3 第3回 西部地区講習会

- ① 日時 令和5年6月17日(土) 9:30~11:30
- ② 会場 浜松市教育センター
(会員は教育センターに集まり、そこにZoomでつないだ映像を映して実施した)
- ③ 内容 講演 「吃音症状に悩む幼児児童のエビデンスのある指導の実際」
講師 宮本 昌子先生(国立大学法人筑波大学人間系教授・言語聴覚士)

<講演内容>

吃音に罹患する人の中で、自然治癒する人は70%ほどいる。その人たちは、吃音が発症してから1年以内に回復するという状態にある。従って、吃音が発症してから1年以内に回復できるようにすることが大切である。幼児に対しては、リッカムプログラムのような直接法、D-Cモデルのような間接法などを用いていくことができる。しかし、発症後1年以上たっている児童に対しては、逃避行動や回避行動が起こらないように支援していくことが大切になる。そのため、児童への支援の方法としていろいろな側面から支援していく方法(CALMSモデルを中核として)を用いることが近年行われている。

<感想>

吃音発症後 1 年以内と 1 年以上では支援の方法が変わってくるのがよく分かり、その子に合った指導方法を見つけていくことがないより大切であると感じた。それにはその子の状態から、どの段階にあるかを判断し、その子本人だけでなくとりまくものを知り、アセスメントを行っていくことが重要であると感じた。

今回は早口症についてのお話が聞けなかったので、機会があれば聞きたいと思う



4 第4回 西部地区講習会

- ① 日時 令和 5 年 7 月 22 日(土)9:30~11:30
- ② 会場 浜松市立双葉小学校
- ③ 内容 講話「得意なところを伸ばし、苦手なところを補いましょう！」
ー神経心理学から見た発達支援ー
講師 浜松学院大学短期大学部 教授
幼児教育科長(兼)子どもの未来創造センター長
志村浩二先生(臨床心理士・公認心理士)

支援を要する子どもたちがどうしてそのような行動をとってしまうのか、どのようにアプローチしていけばよいのかなど、神経心理学から見た発達支援の在り方について講演していただいた。実行機能、ワーキングメモリー、脳の左右連携、視知覚認知に落ち込みがある子どもはどのように行動してしまうのか、それはどうしてかなど、神経心理学からの視点で、その一つ一つを分かりやすく、役割演技を取り入れながら教えていただくことができた。

苦手なことやできないことを何回もやらせるよりもその子の得意なところを伸ばしていくことの方が効果的なこと、そのためには、視覚支援や言語支援の他、苦手なところを得意なことでもカバーするスキルを身に付けていくこと(残存機能の活用と代替機能の獲得)が有効な支援につながっていくことなどを知ることができた。

最初から最後まで、本当に楽しくお話を聞くことができ、あっという間に時間が過ぎてしまった。今日のお話から学んだことを今後に生かしていきたいと思う。



5 第5回 西部地区講習会

- ① 日時 令和 5 年9月30日(土) 10:15 ~ 14:15
- ② 会場 浜松市教育センター 2階研修室
- ③ 内容 構音指導講習会
<テーマ> 「側音化構音・口蓋化構音の評価と指導」
～舌運動訓練を構音指導にどのように使うか?～
<講師> 昭和大学 歯科病院 兼任講師 山下 夕香里 先生



<講演内容と感想など>

(1) 側音化構音と口蓋化構音の評価 <講話のポイント>

歪み音である側音化構音と口蓋化構音を聞き取り、子供の誤った舌の状態を把握し、奥舌の盛り上がりを改善する。担当者が誤り音と正しい音の違いを適切にフィードバックしながら音を作ることで改善に向かわせる。側音化になりやすい音(母音イ、イ列音、拗音、ケ・ゲ音、サ行音、ツ、ザ行音)を意識して聞き取ることが大切。

(2) 舌運動訓練 <実習>

舌平らの訓練、舌尖コントロールの訓練、舌尖を尖らす訓練、舌挙上訓練(ポッピング)それぞれの訓練での指導のポイントを示しながら実習。すぐにできるようになるまで繰り返し訓練することが重要。

(3) 側音化構音と口蓋化構音の指導法 <講話のポイント>

- ① 会話レベルで正しい音が般化しない ② 自己モニターが形成されにくい
 - ③ 構音以外の問題(発達の問題など)への対応 ④ 最終ゴールをどこにするか
- これらの課題に対して、ポイントとなる指導や留意点を詳しく解説。

◇ 参加者の感想より ◇

- ・ 対面での講話・講習で、実習をしながらポイントとなる指導法について解説が聞けたので、分かりやすく、理解が深まった。
- ・ 適切な指導のためには、誤り音をきちんと聞き取り、舌の状態、口の中の状態を正しく把握することが重要であると改めて感じた。

6 第6回 西部地区講習会

- ① 日時 令和5年11月11日(土)9:30~11:30
- ② 方法 zoomでの配信
- ③ 内容 講話「言語発達の遅れのある幼児・児童の見立てと指導について
~LC-RやLCSAを用いて~」
講師 東京学芸大学 名誉教授 大伴 潔 先生

<講演内容>

LC-Rの解説

- ・LCスケールにおける言語・コミュニケーションの5領域
- ・LC-Rの構成・解説
- ・乳児期から学齢までの5つの発達段階

LCSAを使った学齢期の支援

- ・LCSAの構成・目的・課題例
- ・語彙を増やす方略



7 第7回 西部地区講習会

① 日時 令和5年11月18日(土) 9:30~11:45

② 会場 袋井東コミュニティセンター

③ 内容 講話「LD児への具体的な指導・支援」

講師 発達支援教室「じゃんけんぼん」 夏目 徹也 先生

<研修の内容>

通級指導教室担当者としての姿勢・心構えに始まり、LDの概要、それぞれの表れに合った支援の方法について、たくさんの具体例を示しながら講話していただいた。終了後のアンケートでは、受講者全員が「満足」と回答した。幼児から中学まで、幅広い年齢の子どもの指導に生かすことができる考え方、教具などを学ぶことができた。



本で拝見していた教具を、著者自ら説明していただけて感激！子どもたちに試したいと思えるグッズや活動が山盛りで、次回の指導にすぐ生かせそう。



プロフェッショナルであれ、だから学ぶのだ！
支援はその子が笑顔になること！



<参加者の感想>

- ・楽しくてあっという間だった。発達通級で使用している教材や指導のことも分かって勉強になった。音韻とオノマトペの大切さを実感できた。学びの多い時間をありがとうございました。(言語幼)
- ・夏目先生の深い専門的知識と豊富な御経験を組み合わせられた御講話で大変勉強になった。「プロフェッショナルであれ」を皮切りに、理論的に裏付けされた実践の数々、衿元を正された。ユーモアあふれる軽快なトークと熱い心で、我々が進めていく支援は、その子が笑顔になるようにしていくということや昔の遊びは子どもの成長にとっていいことがあるから続いている、LDは治らないけど、その子と一緒に困り感を考えて対応策を取っていけるようにしていくことなど、心に響いた。先生のお話をよく咀嚼し、実践に役立てていきたいと思う。(言語小)
- ・とても分かりやすく、具体的で、勉強になった。話を聞きながら、あっこれはあの子に使えるそう…と色々想像が広がった。さっそく、100均に寄って、次の指導からやってみたいと思った。次の指導が楽しみになった。(発達小)
- ・具体的な教材や指導方法、成果などを紹介され、とても参考になった。(発達中)

8 第8回 西部地区講習会

① 日 時 令和5年11月25日(土)9:30~11:30

② 場 所 竜洋なぎの木会館 203・204会議室

③ 研修内容 講演会「どうみる!? 発達検査 児童の特性理解に活かすアセスメントの基礎知識」

講師 聖隷クリストファー大学 国際教育学部 こども教育学科 准教授 内山 敏 先生

<研修を通して学んだこと>

- ・心理発達と知能の発達
- ・WISC-IV、-Vの理論的理解、結果の解釈
- ・Vineland II 適応行動尺度

<参加者の感想>

・大変分かりやすく興味深い内容だった。「知的発達の遅れ」についてのお話で、今までもやもやしていた疑問が解消された。Vineland IIも使ってみたいと思った。「適応」を測る手段を知らず、大人の主観

で漠然と適応できていないことを判断していたところがあることを感じ反省した。

・心理の基本、仕組みから教えていただくことができてありがたかった。私が見る機会の多い WISC の読み取り方については、今日お話しいただいた理論・解釈に加えて子どもの実際の様子をよく見とりながら支援を考えたい。

・特別支援に携わる者は検査結果から対象児をどう捉えるかについて悩むことも少なくない。検査全体の細かな見方や数値の意味と実際の表れ、結果全体の意味するところを捉える視点を内山先生から学ぶことができた。今後の実態把握に役立てたい。



8 第9回 西部地区講習会

① 日 時 令和 5 年 6 月 17 日(土)13:30~15:30

令和 6 年 2 月 17 日(土) 9:30~11:30

② 場 所 浜松市教育センター

③ 研修内容 ICT研修

講師 浜松市立神久呂中学校 教諭 近藤 充 先生

<研修の内容、感想等>

浜松市内の学校で児童が使用しているクロムブックを使用し、その使い方を教えていただいた。児童生徒が授業の中でどのように使用しているのか、また、どのような機能があり、それをどのように身に付けさせることが子供たちのためになるのかを教えていただくことができた。

私たち指導者が、その地区で使用されている機器について教えていただく機会というのはほとんどなく、このような機会があることが大変ありがたいし、さらに発展していくことを願いたい。

